

青い空白い雲

長野県手をつなぐ育成会ニュース
平成29年10月発行
発行者 長野県手をつなぐ育成会
会長 中村 彰
〒380-0928
長野市若里7-1-7
長野県社会福祉総合センター5F
TEL026-227-6811
Fax026-227-6836

◆◆◆◆◆ 長野県手をつなぐ育成会 主な活動 報告 ◆◆◆◆◆

◆ 平成29年5月28日 代議員総会 出席代議員 34 地区中 28人出席

議題 ●H28年度活動報告・決算報告 ●H29年度活動方針・予算案について 他

全国手をつなぐ育成会連合会から全国レベルでの会員減少の問題提起がされ、長野県でも同様の悩みがあり、昨年度からプロジェクトとして検討したことは既報済みですが、その検討内容は「地道ながらも小単位での気楽な茶話会で会員同士のつながりを大切にしていけることが大事」という基本的なつながりの重要性でした。今後、各地域での会員拡大への取り組みをご紹介します。

◆ 平成29年6月24日 第54回 長野県手をつなぐ育成会 県大会
会場 長野市 障がい者福祉センター サンアップル 参加者総数 213人

講演は田中正博全国手をつなぐ育成会連合会統括による「どうなる 総合支援法とこれからの障害福祉」と題し、この4月から施行された新事業と少子高齢化を見据えた今後の福祉のあり方について語っていただきました。また「今年度の報酬改定から目が離せない、育成会としても高い関心をもって臨む」との言葉に我々の意識も同様にあらねばと思いました。

厚生労働省は1億総活躍社会の旗のもと「我が事・丸ごと」といった地域への福祉事業への転換を示唆しています。予算枠のない新事業として、今ある社会基盤で少子高齢社会の社会福祉を模索していくようですが、育成会も当事者の会として知恵を出す側としての役割を担っていく必要性を感じます。

◆ ふれあい支援事業 現在活動中！！

9月現在、18の事業申請が出され、バス旅行・ボウリング大会・生花の鉢植え体験・軽スポーツ・文化祭作品作り・マナー教室など各地で開催されています。

お住いの育成会からのお誘いがあったらお友達も誘って是非ご参加ください。

◆ 自然探勝会 5地区で開催

- ・北信地区 8月26日 (担当 信濃町手をつなぐ育成会) 「戸隠森林植物園」
- ・東信地区 9月10日「小諸懐古園」(※ ← 写真をご覧ください)
- ・長野地区 10月1日「戸隠森林植物園」 ・中信地区 10月8日「野麦峠周辺」



※樹齢500年小諸懐古園のケヤキの樹を囲む参加者の輪
「大きいね～～」

戸隠自然探勝会に出席して

上水郡手をつなぐ育成会

会長 塚本 栄子 (信濃町)

今年度上水内郡三町村の当番となり、北信地域での自然探勝会を戸隠森林植物園で8月27日に開催しました。事務局の信濃町社協の皆さんと、何度か打ち合わせし「雨が降りませんように・霧が出ませんように」と祈りながら当日を迎えました。山ノ内町・小川村・飯綱町の晴れ男晴れ女の皆さんのお陰で晴天とまではいきませんが、緑眩しい森の中で自然を満喫することが出来ました。インストラクターさんのとても分かり説明にも感謝でした。私も山野草の図鑑を持っていたら更に楽しめたのかなと反省しました。

◆◆◆◆◆負担金に関するアンケート調査のご報告◆◆◆◆◆

長野県手をつなぐ育成会は会員の皆様の負担金と1億円基金の利息で運営しています。ここ数年来の金利低迷とマイナス金利政策によって、基金利息に頼ることができなくなりました。

平成25年に郡市会、市町村の人口×1円+発送費用(1,000円~3,000円)だった計算方式を、会長から会費検討を委託された5地区の代表からなる検討委員会で、1年間かけ審議しました。その答申の結果は会費から負担金の呼称変更と現在の計算方式の採用です。

負担金=【市町村人口(5月調査)×6/10】+【会員数(4月末日現在)×1円】

平成29年度の負担金請求時(6月)に各市町村への会費徴収実態や行政と社協からの補助金の有無などのアンケートをお願いしました。お忙しい中調査にご協力いただいた皆様に紙面をお借りして感謝申し上げます。

現負担金計算方式になって3年目となり多くの会員の皆様からのご意見をいただき負担金の在り様を検討することが、答申のひとつとしてありました。委員を立てて意見を募る方法もありますが経費と時間の節約の観点からアンケート調査も一つの方法として多くの意見を寄せていただけるのではないかと、このような形にさせていただきました。

皆さまからの貴重なご意見をもとに正副会長会で話し合い検討を重ねて参ります。

まだ、ご意見を寄せておられない方でご意見がありましたら、常に受け付けておりますので忌憚のないご意見を心よりお待ちしております。

アンケート配布39市町村 (回収数16市町村) 主なアンケート内容

- ① 会費を徴収している・13地区(年間1,000円~2,000円)・回収していない 1地区
- ② 会に行政からの補助がある ・ある11地区 ・ない5地区
- ③ 赤い羽根募金(社協)からの補助を受けている ・いる7地区 ・ない9地区

◆負担金計算方式へのご意見

- ・高齢化と会員数の減少で少ない活動費のなかでの負担金は大きい。県から脱会すればいいという考えも中にはある。会員数のみの出費ならまだ納得できる。変更をお願いしたい。
- ・人口割の負担金はきつく、地域の活動も特別会計の残金から捻出している。今のところ現方式で収めることが可能だが、今後は厳しい。組織として県育成会の役割も認識しているが、高齢になったから脱退する、就労したから脱退するといった場面で「育成会」としての役割を考えてしまう。
- ・会員一人1,000円にして欲しい。
- ・会員が減る中で従来型の負担金方式は続かない、基金の取り崩しも考えるべき。
- ・現在の方式は妥当だと思う。
- ・会員が減少する中、会員からの会費収入と過去からの積立金を切り崩して活動している。今のところ納入できるが、毎年積立金は減少しているのでいずれ厳しくなる。

皆様からの貴重なご意見ありがとうございます。多くの方からのご意見をいただきたく思っています。持続可能な方式や会員を増やす取り組み等これからもご意見をお待ちしています。

相模原殺傷事件から 1 年

共同通信社による相模原事件後の意識調査に全国手をつなぐ育成会連合会（以下連合会）への協力要請があり長野県手をつなぐ育成会の会員も、アンケート調査に協力をしました。調査依頼が短期間だったため全県レベルで調査ができませんでしたが、県事務局近隣の育成会会員に依頼しました。「信濃毎日新聞」にも調査結果が掲載されご覧いただいた方もおられるかと思えます。

アンケートは全国に 550 部を配布し 304 もの家族からの回答が寄せられ、連合会経由で共同通信社からアンケート結果が報告されました。

起訴された容疑者が起こした衝撃的な事件をどう捉えたらよいのか、一人ひとりが自問自答すべき事件だったと思います。

アンケート内容は

- ① 事件後のご本人の心身の変化があったか。
- ② 事件後の障害者に向けられる世間のまなざし、取り巻く環境が悪い方向に変わったと感じるか。
- ③ 事件後逆に「障害者に対する理解が進んだ」「環境改善の兆しを感じた」か。
- ④ 神奈川県警は被害者の氏名を匿名にした事をどう受け止めているか。
- ⑤ 津久井やまゆり園の建て替え議論への意見
- ⑥ 二度とこのような事件が起きないように、今後障害者行政に望むことは何か。

アンケート結果の顕著な特徴は設問②への答えで 7 割近くの人が事件後「障害者を取り巻く環境の悪化」を感じた経験があったことです。具体的には「インターネットでの中傷」「利用する施設や職員への不安」「被告に措置入院の経験があったことから精神障害者への偏見が強まった」の順で日常での取り巻く環境の悪化をあげていました。

① の設問の心身への変化では 75% が特に変化はないと答えています。

④ の匿名報道への答えとしては匿名にするべき、が 7.5% 実名にするべき、が 38.4% わからないが 27.3% と匿名報道への複雑な思いが反映されていました。

最後の設問の行政に望む施策 6 項目、ポイントの高い順からご紹介します。

- | | |
|-------------------------------|-------|
| ① 差別解消のため障害者の現状や課題を伝える社会啓発 | 71.3% |
| ② 職員教育の充実 | 66.7% |
| ③ 地域の理解を促すための交流事業 | 65.1% |
| ④ 事件の風化を防ぐための情報発信 | 50.3% |
| ⑤ 施設の安全確保 | 49.3% |
| ⑥ 施設に預けず家庭や地域で暮らすための福祉サービスの充実 | 23.6% |

（複数回答）

一人の被告が起こした残忍な事件ですが、なかなかその真実は見えてきません。被告が発したメッセージに共感する人々に対し連合会の久保会長も「子どもに障害があると分かった時に落ち込んだりすることは親にもある。一般の人に差別意識があるのは当然」とインタビューに答えています。

“人は自分とは異なるものを排除しがちで、被告がもっていた「悪意」の芽は自分にもあるかもしれない、そこに目を向け本当の意味での共に生きるための具体策を当事者と一緒に探りたい”と共同通信社の記者はまとめていました。

この事件を忘れることなく、犠牲者への冥福を祈り続けていきましょう。

育成会会員から
のお便り

障がい児を授かり夫婦で過ごしてきた42年間。
気が付いたら私70才、妻67才
「あっ！いたい」「どっこいしょ」
いつしか毎日こんな言葉のやり取り、
やはり年には勝てません。
老いを感じるこの頃です。

H.M

我が子も随分老いてきました。
朝「こんにちは」違うでしょ・・・
「朝はおはようよ」 毎朝のやり取りです。
後は、話はよくするのですが何を言っているのかわかりません。
「中国語？」いや「韓国語？」それも違う。
仕方なし「中国語」で返事（実際はしゃべれません・・・）
本人は「きょとん」としてわらっています。
こんなやり取りを見て妻がまた笑います。
これもまた、楽しいひと時です。

H.M



皆様からの自由な寄稿文を載せて
いきたいと思っています。
お子様の絵画や作文、写真など
ご応募お待ちしております。
詳しくは事務局まで。

インフォメーション

- 10月13日（金） 長野県担当との正副会長会との懇談会 県庁にて
11月10日（金） 地域で暮らそうフォーラム 会場 諏訪市
～11日（土） 今年度も中村彰会長が実行委員長を務めます。
※諏訪方面の方ご参加をお願いします。
11月11日（土） 東北信長野研修会 長野市ふれあい福祉センター 13時
11月19日（日） 中南信研修会 木曾町 木曾公園文化ホール 10時～
12月7日（木） 知事懇談会 県庁
12月10日（日） チャレンジ 第2回 研修会 会場 松本市

編集後記

「全国瞬時警報システム」には恐怖を抱いた方も多かったことでしょう。
国際社会がこぞって軍備への備えを強化したとの報道もあります。
不安をあおるようなことは慎むべきと思いますが、緊急事態、非常事態に一番弱いのは、言うまでもなく子どもと障害者と介助介護が必要な高齢者。
いまだ、かつてない不安な世界情勢ですが、日々穏やかに暮らしたいと切に願う日々です。